

東京家政学院大家政 三東 純子

1. かつて、一般家庭で使用している家計簿記について、その種類、組織、形式などを調査して報告した。その後、約 10 年を経て、高度大衆消費時代と称される時期を迎え、一般家庭において発生する取引にも変化が生じている。たとえば、振替払いをはじめとする現金以外の取引の増加である。これらは現金の授受を伴わないが家計としては看過できない取引である。在来の家計簿記では、現金取引を中心として取扱う傾向が強かったが、時代の変化に即応して、現金以外の取引をも対象とすることが要求される。そこで、約 10 年の間に家計簿記がどのように変化したかについて調査し、今後の改善に示唆を得たいと考えた。

2. 現在、一般に使用されている家計簿記、および著書論文について、その対象と記帳計算の組織とを調査した。また、仮設例題による記帳実験によって、各家計簿記のもつ問題点について検討した。

3. 調査検討の結果、各家計簿記にくふう改善のあとがみられた。しかし、簿記学的に完全とみとめることのできるものは、複式以外では松平友子創案のものと、私案のものとのだけのものであった。